

特別企画

平成19年度日本映画上映支援事業

溝口健二監督映画祭

溝口健二監督没50年。世界で最も美しいと言われる溝口芸術の真髄に迫る。



「西鶴一代女」



「山椒大夫」



「赤線地帯」

12【水】23【日】
14:00 14:00

近松物語

監督：溝口健二
出演：香川京子
長谷川一夫



原作は実話をもとにした近松門左衛門の戯作の代表作の一つといわれる「大経師昔暦」。これを川口松太郎が「おさん茂平衛」として小説化、依田義賢が脚本をおこし、溝口が監督した作品。戦後、溝口は日本の近世文学の映画化を中心に名作を次々に作り、国内だけでなく海外でも高い評価を獲得したが、「近松物語」はその彼のキャリアの中でも晩年に位置する名作であり、完成した溝口映画のスタイルを存分に堪能できる。

大経師以春は朝廷から暦の発行権を与えられた京都の商家の名士だが、ケチで女好き。若い後妻のおさんにも自由に使えるお金などほとんど与えず、一方で女中のお玉を自分の妾にしようと狙っていた。手代の茂平衛に一方的に思いを寄せていたお玉は、以春のしつこい口説きに困り果てており、おさんに相談する。おさんはお玉の部屋に毎夜口説きに来る以春を諫めようと、ある夜二人は部屋を入れ替わることにする。しかし、お玉の部屋に寝ているおさんの許へ現れたのは、昼間にお玉に窮地を救われた茂平衛で、それを忍んできた以春に見とめられ、大騒ぎとなってしまう。おさんと茂平衛は無実をはらす機会も与えられず、その場を逃げ出してしまうが…。

1954年／35ミリ／モノクロ／102分／大映

6【木】15【土】
18:30 11:00

浪華悲歌

監督：溝口健二
出演：山田五十鈴
梅村蓉子



電話交換手のアヤ子は、横領事件を起こした父親を救うため、彼女の勤める会社の社長の愛人となる。その社長と別れた後、今度は兄の学資を工面するために、男をたぶらかして金を得ようとするが…。名脚本家、依田義賢と初めて組み、日本映画にリアリズムを確立させたといわれる溝口健二の戦前の代表作。

1936年／35ミリ／モノクロ／72分／第一映画

5【水】15【土】
14:00 14:00

祇園の姉妹

監督：溝口健二
出演：山田五十鈴
梅村蓉子



梅吉とおもちゃは京都、祇園の芸妓の姉妹。ある日、姉の梅吉のもとに昔世話になった古沢が破産して転がり込んでくる。梅吉は無一文の古沢の面倒を見ようとするが、妹のおもちゃは勝手に古沢を追い出してしまう…。『浪華悲歌』とともに溝口健二の戦前の代表作の一つとして知られる名作。

1936年／35ミリ／モノクロ／69分／第一映画

7【金】15【土】
14:00 17:00

歌麿をめぐる五人の女

監督：溝口健二
出演：坂東妻助
田中絹代



国立近代美術館フィルムセンター収蔵作品

歌麿の美人画に取り上げられたことで評判となった、茶屋の娘・おきたは、前々から惚れていた紙問屋の若旦那・庄三郎が花魁の多賀袖と駆け落ちしたことから、歌麿や弟子の勢之助、勢之助の許嫁、雪江にまで当たり散らす…。邦枝完二の小説「歌麿をめぐる女達」の映画化作品で、緻密な女性描写など、後の名作「西鶴一代女」につながる佳作。

1946年／35ミリ／モノクロ／95分／松竹

8【土】19【水】
11:00 14:00

お遊さま

監督：溝口健二
出演：田中絹代
乙羽信子



息子を育てながら優雅に暮らす未亡人のお遊。ある日、妹のお静の見合いに付き添った彼女は、見合い相手の慎之助に一目惚れされる。お遊にすすめられ慎之助と結婚するお静だが、お遊もまた慎之助に惹かれていることに気づき、二人の仲を取り持つ…。谷崎潤一郎の「芦刈」の映画化。原作の時代を現代に置き換えた意欲作。

1951年／35ミリ／モノクロ／93分／大映

6【木】22【土】
14:00 14:00

残菊物語

監督：溝口健二
出演：花柳章太郎
森 赫子



歌舞伎の名門、尾上菊五郎の養子、菊之助は後継者として東京で高い人気を得ていた。その人気に天狗になっていた菊之助を弟の乳母、お徳が諫める。これが縁で二人は惹かれあうようになるが、封建的な世界で二人の恋は許されるはずもなく、お徳は解雇されてしまう…。溝口が「ワンシーン・ワンカット」というスタイルを確立した芸道物の名作。

1939年／35ミリ／モノクロ／147分／松竹

7【金】22【土】
18:30 11:00

雪夫人絵図

監督：溝口健二
出演：木暮実千代
上原 謙



旧華族の信濃家の一人娘、雪は養子として直之をむかえ入れて結婚するが、直之には綾子という妾がいた。一方雪も琴の師匠と惹かれあっていた。やがて雪の父親が亡くなると、信濃家が財政的に苦しい状態であることがわかり…。舟橋聖一の代表作の映画化で、溝口の女性映画に新境地を開いた作品。

1950年／35ミリ／モノクロ／85分／新東宝＝滝村プロ

特別企画 平成19年度日本映画上映支援事業 溝口健二監督映画祭

溝口健二監督没50年。世界で最も美しいと言われる溝口芸術の真髄に迫る。

会 期：12月5日(水)～24日(月・祝)

※休館日・休映日を除く

観覧料：600円(大人)

500円(大学生・高校生)

400円(中学生・小学生)

※定員制。各回入替制。

※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。

※障がい者の方、および福岡市在住の65才以上の方は300円(手帳の提示が必要です。)

※「わの会」会員は300円(会員証の提示が必要です。)

フィルム・写真提供：

角川映画株式会社、松竹株式会社、国際放映株式会社、国立近代美術館フィルムセンター

共催：コミュニティシネマ支援センター、
(財)国際文化交流推進協会(エース・ジャパン)
国立近代美術館フィルムセンター



「山椒大夫」撮影風景

9【日】21【金】
14:00 18:30

雨月物語

監督：溝口健二
出演：田中絹代
京マチ子



江戸時代の代表的な怪異小説集である上田秋成の「雨月物語」の映画化。溝口健二の代表作の一つであり、彼の作品の中でも特に国際的な評価の高い作品の一つ。篠兵衛は武將になろうと妻、阿浜が止めるのも聞かず戦場へ。一方その義兄で陶工の源十郎は焼物を届けに行った屋敷の姫、若狭の妖しい魅力に魅了され…。

1953年／35ミリ／モノクロ／97分／大映

14【金】24【月祝】
14:00 11:00

新・平家物語

監督：溝口健二
出演：市川雷蔵
久我美子



吉川英治原作の大河小説「新・平家物語」の映画化。特に平清盛の若い頃に中心を据えて描いている。清盛を市川雷蔵が演じた大作時代絵巻で、「楊貴妃」に続いて溝口二作目となるカラー作品である。武勲を立てながら公家に冷遇される平忠盛、清盛親子。清盛は自分が忠盛の本当の子ではないと知り、思い悩むが…。

1955年／35ミリ／カラー／107分／大映

9【日】21【金】
11:00 14:00

祇園囃子

監督：溝口健二
出演：木暮実千代
若尾文子



1950年のアメリカ映画「イブの総て」をヒントに製作された京都・祇園の世界を舞台にした現代劇。ベテランの人気芸者・美代春を木暮実千代、彼女に弟子入りする若い芸者・栄子を当時まだ20才の若尾文子が演じている。人気芸者の美代春に芸妓を仕込まれた栄子は一年後、舞子のお披露目を果たす。その金を工面した楠田は栄子を狙い…。

1953年／35ミリ／モノクロ／84分／大映

13【木】23【日】
18:30 11:00

噂の女

監督：溝口健二
出演：田中絹代
久我美子



京都の島原で置屋兼茶屋を営む初子には、雪子という一人娘がいた。東京にいた雪子は家業のために失恋して自殺を図るが果たせず、家に連れ戻されていた。廓街の島原を嫌う雪子だが、そこで働く女性達には同情的であった…。女主人の初子に田中絹代、その娘の雪子を久我美子が演じている。溝口の風俗描写の巧みさも光る作品。

1954年／35ミリ／モノクロ／84分／大映

8【土】20【木】
14:00 14:00

西鶴一代女

監督：溝口健二
出演：田中絹代
三船敏郎



原作は井原西鶴の「好色一代女」。夜鷹に身を落としたお春が自らの数奇な運命を振り返る。13才で御所勤めとなった彼女は、若党勝之と会っていたところを捕まり、不義密通の罪で洛外追放になる。やがて大名に見初められ、子供を産むが…。溝口健二の名を世界的に知らしめた名作。

1952年／35ミリ／モノクロ／136分／新東宝＝児井プロダクション

13【木】22【土】
14:00 17:00

山椒大夫

監督：溝口健二
出演：田中絹代
花柳喜章



童話「安寿と厨子王」を題材にした森鴎外の小説「山椒大夫」を、八尋不二と依田義賢がほぼ忠実に脚色した。平安時代末期、人買いにだまされ、丹後の山椒大夫の許に奴隷として売られた厨子王と安寿。10年後、母の消息を知った二人は山椒大夫のもとから逃げ出し…。ヴェネチア映画祭銀獅子賞を受賞した名作。

1954年／35ミリ／モノクロ／124分／大映

8【土】20【木】
17:00 18:30

赤線地帯

監督：溝口健二
出演：京マチ子
若尾文子



国会で売春禁止法は是非が激しく論議されていた頃。売春が認められ、通称「赤線」と呼ばれた地域の一つ、吉原の「夢の里」に働く五人の売春婦たちを描いている。戦後、文芸物を中心に活躍し、その評価を世界的にした溝口が久しぶりに手がけた風俗映画。宮川一夫の撮影が秀逸。なおこの作品が溝口健二の遺作となった。

1956年／35ミリ／モノクロ／85分／大映

14【金】24【月祝】
18:30 14:00

ある映画監督の生涯

監督：新藤兼人
出演：田中絹代
永田雅一



溝口健二を師と仰ぐ新藤兼人が、溝口健二の監督像だけではなく、その素顔にも迫ろうと、三十九人にも及ぶ溝口の関係者に直接インタビューした内容を中心に構成されたドキュメンタリー。

1975年／35ミリ／カラー／ドキュメンタリー／150分

特別企画

サイレント映画弁士・楽団付き上映「折鶴お千」

溝口監督のサイレント時代の傑作「折鶴お千」を活弁付きで上映。

上映作品

折鶴お千



監督：溝口健二 出演：山田五十鈴 夏川大二郎

1935年／16ミリ／モノクロ／サイレント／90分／第一映画

医学を志して挫折した宗吉は、自殺を図ったところを熊沢の情婦・お千に助けられる。熊沢の手先として悪事を働かされる宗吉だが、熊沢一味は逮捕され、お千と宗吉は二人で長屋に暮らす。お千は宗吉を夜学に通わせるが、やがて行き詰まり体を売るようになる。そして客の財布を盗んだ疑いで逮捕されてしまう。「日本橋」の「滝の白糸」に続く泉鏡花原作の映画化作品。宗吉とお千は「滝の白糸」のような恋人関係ではなく、お千は宗吉を弟のように面倒をみる。そしてプラトニックな愛情の果てに身を落とすお千の最後は「滝の白糸」よりも悲劇的である。山田五十鈴は当時まだ17歳であったが、4才年上の夏川大二郎を姉のようにつつみこむ見事な演技を見せている。

申し込み方法

ハガキ、FAX、Eメールのいずれかで郵便番号、住所、氏名、電話番号、「折鶴お千」鑑賞希望と記入の上、下記まで応募してください。先着順で受付をいたします。受付けた方には整理券（ハガキ）を発送します。申し込みは11月15日から12月8日（必着）まで。ただし締め切り前に定員を超えた場合は、その時点で受付を中止します。8日までに満席とならない場合、残数は当日券として販売します。

応募先：〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1 福岡市総合図書館映像資料課「折鶴お千」係
FAX: 092-852-0609 メールアドレス: silent@cinela.com

会 期：12月16日（日）14:00

観覧料：1,000円（事前の予約が必要）

※障がい者、高齢者、「わの会」割引なし。

弁士：澤登翠

東京都出身。故松田春翠門下。活動弁士としてのキャリアはすでに30年以上で、洋画、邦画、現代劇、時代劇と多彩なレパートリーを持つ。日本国内だけでなく、海外での公演も多く、「伝統話芸・活弁」を現代に伝える貴重な存在として活躍している。2002年文化庁芸術祭優秀賞など受賞歴多数。

楽団：カラード・モノトーン

無声映画の音楽（生演奏）を行うために結成された専属楽団。87年に「国民の創生」の音楽制作・演奏を担当して以来、活動写真の音楽を研究し、澤登翠と共に各地で公演を行っている。

湯浅丈一（作曲・編曲・三味線）村井音文（ピアノ）鈴木真紀子（フルート）高橋比佐子（ヴァイオリン）足立克巳（パーカッション）

※メンバーは変更されることがあります。

12月

上映スケジュール

溝口健二監督映画祭

1 土	休 映 日	
2 日	自主上映 [福岡映画サークル2007第6回例会]	
3 月	休 館 日	
4 火	休 映 日	
5 水	14:00 祇園の姉妹	
6 木	14:00 残菊物語	18:30 浪華悲歌
7 金	14:00 歌麿をめぐる五人の女	18:30 雪夫人絵図
8 土	11:00 お遊さま	14:00 西鶴一代女
9 日	11:00 祇園囃子	17:00 赤線地帯
10 月	休 館 日	
11 火	休 映 日	
12 水	14:00 近松物語	
13 木	14:00 山椒大夫	18:30 噂の女
14 金	14:00 新・平家物語	18:30 ある映画監督の生涯
15 土	11:00 浪華悲歌	14:00 祇園の姉妹
16 日	14:00 サイレント映画弁士・楽団付き上映「折鶴お千」	17:00 歌麿をめぐる五人の女
17 月	休 館 日	
18 火	休 映 日	
19 水	14:00 お遊さま	
20 木	14:00 西鶴一代女	18:30 赤線地帯
21 金	14:00 祇園囃子	18:30 雨月物語
22 土	11:00 雪夫人絵図	14:00 残菊物語
23 日	11:00 噂の女	17:00 山椒大夫
24 月祝	11:00 新・平家物語	14:00 ある映画監督の生涯
25 火	休 館 日	
26 水	27 木	休 映 日
28 金	1/4 金	年末・年始の休館日

溝口健二監督映画祭

日本映画の巨匠 溝口健二 没50年



溝口健二監督(写真左)と脚本家・依田義賢

1898年東京都・湯島に生まれる。1920年日活向島撮影所に入社。22年田中栄三監督の「京屋襟店」で助監督をした後、23年「愛に魅れる日」で監督デビュー。関東大震災後、京都の日活撮影所に移り、女性をテーマにした作品で異彩を放つようになる。32年新興キネマに入社。サイレント期の日本映画の傑作「滝の白糸」(33年)を発表。34年第一映画に移籍「折鶴お千」「浪華悲歌」「祇園の姉妹」と映画史に残る作品を監督する。その後松竹・大映と移籍するが、松竹時代の「残菊物語」ではその後の溝口演出の特徴とされるワンシーン、ワンカットを多用、戦前の溝口作品の代表作とする。

戦中から戦後にかけてヒット作がなかったために一時引退をささやかれたが、「西鶴一代女」で52年ヴェネチア映画祭国際賞を獲得、一躍世界に認められる。その後「雨月物語」で53年ヴェネチア映画祭銀獅子賞、「山椒大夫」で54年ヴェネチア映画祭銀獅子賞と三年連続受賞の快挙を達成、世界の溝口の名声を確認する。56年「赤線地帯」撮影終了後、白血病のため死去。

溝口監督はジャン＝リュック・ゴダール、フランソワ・トリュフォー、エリック・ロメールなどヨーロッパの巨匠たちに大きな影響を与え、また日本映画の古典的作品が世界の一流作品と比肩することを証明した監督だった。生涯に90本を超える作品を監督しながら、その半分以上が失われている溝口監督だが、ゴダールを驚嘆させた「山椒大夫」のラストシーン、トリュフォーが脱帽した「雨月物語」などその映像の美しさ、作品の素晴らしさは没50年後の今でも色あせることなく輝いている。

■自主上映のお知らせ

12月2日(日) 福岡映画サークル2007第6回例会

上映作品:「恋するトマト」①11:00 ②14:00

観 覧 料:前売り1,200円 当日1,400円 シニア1,000円

主 催:福岡映画サークル協議会 (TEL:092-781-2817)

■映像ホール利用申し込みについて

映像ホール・シネラでの自主上映(非営利に限る)を希望される方は、下記のとおり利用申し込みを受け付けいたします。

- 利用申し込み対象期間:平成20年6月～11月まで
※別途配布の申し込み用紙に対象日を記載しています。

- 申し込み受付期間:
平成19年11月25日(日)～12月6日(木)※休館日除く

- 抽 選 日:平成19年12月8日(土) 午前11時より

- 抽選会場:福岡市総合図書館3階第2研究室

- 利用申し込み方法:
福岡市総合図書館で配布中の申し込み用紙をご提出下さい。

次号予告 収蔵作品特集 日本映画名作選

図書館収蔵の日本映画の中から様々な名作・秀作をセレクトして上映。

会 期:1月5日(土)～2月2日(土)※休館日・休映日を除く。

上映作品:「隣の八重ちゃん」「人情紙風船」「鴛鴦歌合戦」「東京物語」「ダイナマイトどんだん」など全20作品。



「隣の八重ちゃん」



「東京物語」



「ダイナマイトどんだん」



交通アクセス

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄

- 西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス

- 天神～都市高速経由～福岡タワー南口(所要時間:昼間で約20分)
- 博多駅～都市高速経由～福岡タワー南口(所要時間:昼間で約25分)
- 福岡タワー南口バス停から徒歩3分
所要時間は交通事情により異なります。お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください



Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表):092(852)0600

映像資料課:092(852)0608 Fax:092(852)0609

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ http://www.cinela.com